

日本藻類学会 50 周年記念グッズ—立体写真の撮り方

「藻類立体写真集」を作ってみませんか

来年 2002 年に開催される大会に向けて、50 周年記念グッズが企画されておりますが、その一つとして「藻類立体写真集」の作成が進んでおります。この写真集ははがき大の紙面に 2 枚の写真を印刷し、立体視メガネで見ることによって、立体像として観察するものです。現在のところ 3 シリーズ 1. SEM による微細藻類の世界、2. 珪藻の世界、3. 海藻の世界（いずれも仮称）が計画されております。写真には簡単な説明を付記し、多くの方々に藻類に興味を持って頂けるよう配慮する予定です。

撮影方法をご紹介しますので、皆様もぜひ 3D 写真の撮影にご参加ください。

立体写真の撮影方法

1. 磯などの生態写真

撮影装置：2 台の同型のカメラに同型レンズを装着したものを三脚雲台に固定し、ダブルレリーズをつけます（図 1）。

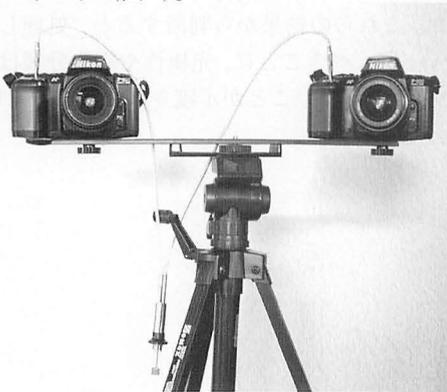


図 1 撮影装置



図 2 ヒバマタの生育写真（北海道厚岸海岸）

撮影方法：立体写真で一番大切な要素は被写体までの距離と 2 台のカメラの間隔です。神宮氏（日立インターメディックス）の情報によると、被写体までの距離が数 10cm～数 m まではカメラ間隔は一定で、24cm が一番良い結果が得られるとのことでした。私も実際に撮影して見ましたが、良い結果が得られました（図 2）。ただし、たとえばほぼ無限遠である富士山の立体写真を撮影するには、間隔を 20m 程度に広げないといけません。

まず、2 台のカメラを被写体の中央に向けます。オートフォーカスは使わず、マニュアルでピントを合わせます。露出はオートでかまいません。レリーズにより同時にシャッターを切ります。

2. 走査電顕（SEM）写真（本号表紙写真）

観察の倍率にも関係しますが、左右 2 枚の写真を 10° ほど傾斜をかけて撮影します。1 枚目は $+5^\circ$ 、2 枚目は -5° 傾斜して撮影すると、左右で 10° 違った像が得られます。

これぞと思われる作品ができましたら何卒下記までお送り下さい。会員の皆様のご協力をお願いいたします。またご不明な点がございましたらご連絡下さい。

連絡先：〒 102-8159 千代田区富士見 1-9-20

日本歯科大学 南雲 保 電話 03-3261-8601

南雲 保（日本藻類学会 50 周年記念事業実行委員会）